

# 八木健の川柳アート

41

用語や言葉遣いに関心を持つこと

世の中で使われている言葉は問題点が多々。それも川柳の題材になる。

最近の拙句から。

メタボより内臓脂肪症候群

これまでは無視されていた俺なんだ

(文化審議会で「俺」が常用漢字の仲間入り)

言葉遣いで足元をすくわれる

(正しくは「足をすくわれる」)

特選

選者・川柳アート

八木健

(月刊川柳総合誌「川柳マガジン」元選者)



城導寺しん (八幡浜市)

試合よりピキニに関心あるゲーム

川柳は正直を書くから、人の心がきちんと記録される。オリンピックの記録に「肉体美は観衆をおおいに魅了した」とか「大部分の観客は試合経過には無関心だった」などは書かれない。だから、川柳にしておかなくちやね。

佳作



田辺進水 (松山市)

混浴と聞いてそわそわする足湯

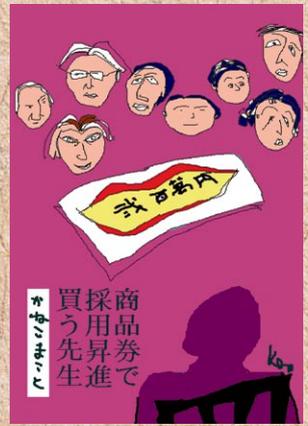
江戸時代は男女混浴でしたから、もし進水さん江戸時代に生まれていたらおそらく夢のような日々でしょうね。その後、風紀を乱すからと禁止された。いっそ道後温泉を男女混浴にしたら……、地元の人だけで満員になるか。



藤原白男 (今治市)

定年を境に妻が舵をとる

会社人間で世の中を知らない男が多い。まずスーパーでの買物のお供から始め、次に全自動洗濯機の使い方を習います。「止めるのはどのボタンなんだ?」「あんな馬鹿ね。全自動だから自分で止まるよ」「なるほど」という具合。



かねこまこと (東温市)

商品券で採用昇進買う先生

「ズル」がまかり通る世の中である。多くの府県で議員さんが口利きをしていた。そういう議員さんが当選する。世の中はソナモノ。優良企業への就職を可能にする「コネ」も実力のうちとあきらめて、みんな生きていく。



丸山輝余子 (松山市)

ボロを着て上等の服は虫にやり

上等の服は滅多に着ないからそんなことになる。こんなことになるならパジャマの代わりに着たらよかった。虫に食われなくても「サイズ」が合わなくなる、という悲劇もある。

古今の名句

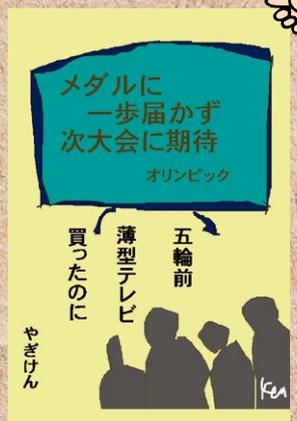


小田夢路

馬鹿な子はやれず賢い子はやれず

壮年期に妻に先立たれて、四人の幼い子を抱えて途方にくれたとき、親戚から引き取る話が出た。その時の句である。結局は子を手放さなかった。夢路は、明治二十六年、広島生まれ。原爆で、爆心地から七百メートルの所で死んだ。

今月の八木健



やぎげん

五輪前薄型テレビ買ったのに

日本選手はそれぞれに頑張ったから、こんな川柳を作ったら失礼だろう。筆者はスポーツはからきしダメだ。テレビの前で「ガンバレ」と怒鳴ることぐらいしかできぬのだ。それでも……、川柳は川柳。

本コーナーが  
待望の単行本化  
好評発売中!!



「八木健の川柳アート」では、川柳を募集しています。テーマは自由。未発表のオリジナル作品に限りません。採用された作品には八木さんが「川柳アート」を作り、本誌に掲載の上、採用者にプレゼントいたします。応募方法は36ページをご覧ください。